

乳房炎部会から

# 乳房炎防除対策研究会に 参加して

平成16年2月19日、札幌市において北海道乳質改善協議会主催による第11回乳房炎防除対策研究会が開催されました。この研究会は、生産者や農協職員、獣医師をはじめ、普及センターやメーカーなど生乳生産に携わる多くの関係者が全道各地から集まり、乳質改善や乳房炎防除を目的として開催されます。今回は、午前中に基調講演として2題の話題提供が、午後からは4題の事例発表があり、380名を超える出席者でとても盛んな研究会でありました。

基調講演では、まず北海道酪農畜産課 服部 聖主査から「生乳の安全・安心の確保を目指した取り組み」として、北海道酪農の概況について触れた後、食品安全基本法の制定・食品衛生法および乳等省令などの改正を中心に、一連の食品安全関連法令改正の要点が話されました。この背景には、低脂肪乳による集団食中毒や農薬残留事故、産地不正表示など、食品の信頼を揺るがす昨今の残念な事件の発生があります。食品の安全と信頼を回復するために、今回の改正では食品の安全性確保と国民の健康保護の最優先が法の目的として明記されたとのことでした。生乳の安全確保を目指した取り組みとして、搾乳機器衛生管理ボードや生乳の衛生管理手帳の活用、記帳・記録の徹底、バルク乳温管理システムの導入、生乳出荷時検査の徹底が話されました。

引き続きホクレン生乳共販課 石崎 裕課長から「生乳需給を巡る情勢について」と題して脱脂粉乳の在庫過剰問題を中心に生乳・乳製品需給の15、16年度の見通しと道産牛乳の安定供給・需要拡大の方針について話題提供がありました。食中毒事故以降脱脂粉乳の使用量が年々減少し、中でも加工乳・乳飲料向けの使用量が減少しているとのことでした。この話の中でも、北海道酪農の目指す方向は消費者の求める「安全・安心な牛乳・乳製品」の安定供給であることが述べられており、良質乳生産に向けての日々の取り組みがいかに大切か、改めて感じました。

午後は4題の事例発表がありましたが、その中に阿寒町の（有）仁成ファーム 菊池利治専務より「協業経営における良質乳生産の取り組み」と題して、関係機関の協力に

より乳質の向上、乳量の増加が図られていった経緯についての発表がありました。

仁成ファームは平成4年8月に設立された阿寒町最初の協業経営農場であり、現在は役員5名、従業員6名、パート9名の体制で経産牛450頭、育成牛285頭を飼養する町内最大規模の農場です。また阿寒町ではNOSAI、JA、普及センター、さらには農業試験場などで構成されるアドバイザーチームを作って事故低減、乳質改善に取り組んでおり、仁成ファームでは平成12年度から対策を実施しました。同農場が行った対策は搾乳立会による搾乳衛生・手順の改善に始まり、1日3回搾乳への移行、飼養管理や環境の改善と多岐にわたるもので、アドバイザーチームによる立会の中で明らかになった問題点については優先順位を付け、緊急性があること、効果の大きいことから対策に着手するという方法がとられました。

### 対策の具体的な内容は、

全頭の乳汁検査や搾乳システム点検を含めた搾乳立会の実施－推奨される手順に従った搾乳手順マニュアルを作製して搾乳スタッフの間で意識や技術の統一を図り、搾乳システムの整備やSA感染牛対策を実施。

カウコンフォートに重点を置いた環境改善－乾乳・分娩牛舎を新設し自由な環境で分娩させることができるようになり、また分娩舎のミルクカーをパーラーと同一にすることでミルクカー変更によるストレスを軽減。フリーストールへの連続水槽や大型扇風機の設置、飼槽のコーティングを実施し採食性を高める。牛体の汚染を防ぐためにベッドの敷料を頻繁に入れ替え夏場は発泡消毒を行い、断尾や乳房の毛焼きを実施。搾乳時に四肢が糞尿で汚れないようスクレパーの稼働時間を変更。

栄養改善－3回搾乳への移行で栄養要求量が高まることから栄養面での改善にも着手し、旬ごとにMUNのデータを入手し、飼養管理に活用。

このように仁成ファームが行った改善対策は搾乳面に留まらず多岐にわたるものでしたが、これらの取り組みにより、平成11年度乳検成績では1頭あたり平均乳量は7,758kg、平均体細胞数は18万/mlでしたが、平成15年にはついに10,000kg牛群を実現し、体細胞数も安定して10万以下で推移しているとのこと。メガファームでの成功例として羨ましい限りの内容でしたが、発表の中で最も印象的であったのは締めくくりに話された、「何も特別なことはしていません。当たり前のことを当たり前にとただけです。」という言葉でした。当たり前のことを怠らずに農場一体となり継続して取り組むという姿勢が良質乳生産につながっているということが、何より重要なことと感じました。

標茶支所西部家畜診療課

山本 康了